

令和6年度
東京都写真美術館作品資料収蔵委員会
作品資料評価部会

令和7年1月23日(木)
東京都写真美術館 4階会議室

午後4時02分開会

知花文化施設担当課長：皆様、本日はお忙しい中、御出席賜りましてどうもありがとうございます。ただいまより、令和6年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会作品資料評価部会を開催いたします。私、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化施設担当課長の知花と申します。本日の司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

作品資料収蔵委員会には、収集部会と評価部会がございます。収集部会は、東京都写真美術館の収蔵品としてふさわしいか否かを付議する部会、また評価部会につきましては、東京都写真美術館の収蔵品としての価格を個別の委員の方々に評価いただく部会となっております。

本日、評価部会の前に収集部会を開催いたしまして、当部会でお諮りする案件につきましては当館へ収蔵することが適切であるという御意見をいただいております。

本日は、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい適正な価格評価をどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、本日御出席いただいております委員の皆様を御紹介させていただきます。私から見て左の席から、順に御紹介させていただければと思います。

まず、浦野委員でございます。

続きまして、小川委員でございます。

続きまして、木村委員でございます。

続きまして、近藤委員でございます。

続きまして、増田委員でございます。

続きまして、松本委員でございます。

続きまして、事務局職員の紹介をいたします。

写真美術館副館長の小野でございます。

同じく、写真美術館事業企画課長の丹羽でございます。よろしくお願いいたします。

次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。

まず会議次第がございまして、続いて資料1「委員名簿」、資料2「東京都写真美術館作品資料収蔵委員会設置要綱」。

続いて、評価関係資料としまして、「令和6年度収蔵作品資料別収集予定点数一覧表」、その下に「令和6年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会購入作品」の「東京都購入案件」個表、「東京都写真美術館購入案件」個表、そして「令和6年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会寄贈作品」、「令和6年度東京都写真美術館作品資料収蔵委員会寄託作品」の4種類がございます。

その他、評価書が東京都購入案件、東京都写真美術館購入案件のもの、寄贈案件のもの、寄託案件のもの4種類用意してございます。よろしいでしょうか。

お手元の資料につきましては、現時点で未公開の情報が含まれておりますので、会議終了後、回収をさせていただきたいと考えております。

議事に入る前に、当部会の公開について確認をさせていただきます。本日の議事は評価対象資料の価格評価に関するものでございますので、資料2「東京都写真美術館作品資料収蔵委員会設置要綱」の第10の規定に基づきまして、非公開といたします。

なお、当部会の議事録につきましては、作品資料収集決定後、委員の皆様の個別の価格の評価を除きまして公開を予定しております。公開に当たっては、委員の皆様に追って内容の確認をさせていただければと考えておりますので、よろしくお願いたします。また、委員の皆様のお名前と現職名につきましては、東京都のホームページ上にて公開をさせていただいております。

それでは、議事に入りたいと思います。

写真美術館事業企画課長の丹羽より、本日皆様に評価いただく資料の説明をいたします。よろしくお願いたします。

丹羽事業企画課長：今日、こちらで、購入、寄贈、寄託の作品の概要を御説明いたします。その後、作業室、収蔵庫前の部屋で実見できるような作品を御用意してございますので、そちらで細かな御説明をと思っております。

評価額の決定方法ですが、評価額の最高額と最低額を切って平均いたします。御了承いただければと思います。

では、簡単にこちらの部屋で作品の御説明をさせていただきます。都費購入の表を御覧いただけますでしょうか。国内写真作品12作家、海外作品1作家、映像作品が5作家、計18作家でございますが、1人、三田村光土里が映像作品と写真作品で被っておりますため、作家数としては17作家、91点でございます。

個表の中につきましては、また作品を御覧いただきながら御説明いたしますけれども、まず令和7年度以降のコレクション展などで活用するというので、赤瀬川原平、石原友明、そして児玉房子、檜橋朝子、三田村光土里、ペドロ・コスタ。これらの作家が、来年度及びそれ以降の企画展、コレクション展での活用を考えております。

そして、大田黒衣美、金川晋吾、かんのさゆり、番原田裕規、千賀健史。こちらが今月19日まで開催しておりました、「日本の新進作家」展の出品作家でございました。主に出品作品を中心に購入と、加えて寄贈についても今回付議いたします。

そして、北野謙、寺田真由美。これらは今年の春から夏にかけて行われていた、コレクション展へ出品した作品でございます。北野謙は「時間旅行」展のポスターにもなりました、「光を集める」という作品及び代表作を加えております。寺田真由美については、小さな部屋のマケットを作って、自然光のような光を入れながらモノクロの作品を制作するという作品で、「見ること」展の出品作品でございました。

そして、鷹野隆大。こちらがこの後、2月末から開催されます当館の30周年記念展及び重点収集作家個展の作家でございます。

アレック・ソスは、昨年3点収集しておりますけれども、それに今回また加えまして5点の御提案となっております。

映像作品、青木+伊藤ですが、こちらは昨年度の「恵比寿映像祭2024」に出品していた作品からでございます。以上が、東京都の購入案件でございます。

そして、写真美術館の購入案件について御案内したいと思います。

まず、石川直樹は、令和7年度以降に個展の開催を検討している作家でございます。こちらの写美購入というものは、当館の支援会員、支援協議会の会費を財源とするものでございます。その時宜にあった作品ということで、石川直樹は昨年10月に、日本人としては二人目となる8,000

メートル級の14座を達成ということで、大きく報道もされたりしておりました。その14座を達成したこの年に、改めて御自身が登ってこられたその14座を選ぶということで、今回、14座の14点の購入となっております。

2番から8番までは、全て19世紀の作家でございまして、希少性の高いもの、また当館のコレクション19世紀のものを振り返りまして、女性の視点であるとか、写された女性であるとか、女性の作家などの観点から、ジェンダーバランスを考えて補完していこうというところで、今回は計8作家、30点の購入を計画してございます。

次に、寄贈の個表を御覧ください。

寄贈につきましては、27作家、789点と大変多い数になっておりますが、昨年度、今年度の2年度分の展覧会などで出品した作品が対象になっておりますため、ちょっと多い数となっております。

この中から、購入と寄贈合わせて検討している作家というのが、まず新進展の大田黒、金川、かんの、千賀、原田。こちらの5名が、新進展に出品した物の購入と併せての寄贈ということでございます。

そのほかに、購入と併せて寄贈の方が、北野謙、児玉房子、檜橋朝子でございます。

そのほか、当館は新進作家展という枠組みで、専門性を持った学芸員がグループ展を限られた空間の中で組み上げますので、そういったところになかなか上ってこない作家を、まとめて御寄贈という形でお受けしております。この中には、96年から数年間、当館の購入予算が凍結していた時代に活動なさっていた方も入っております。それに当たる方々というのが、青木、浅川北、竹谷、萩原、渡部でございます。

そのほか、昨年度の出品作品からコレクションに保管させていただくという視点で、篠山紀信。篠山紀信は、当館の重点収集作家でもいらっしゃいます。また、淵上裕太、こちらは、去年の新進作家展でございます。そのほか、星玄人、夢無子、あと展覧会という意味では、宮崎学、本橋成一、山上新平でございます。あと、ホンマタカシも昨年度、個展を実施した作家でございます。

奈良原一高ですけれども、こちら、当館の重点収集作家で、既に多くの作品を持っておりますけれども、今回は「円」という作品を中心に御寄贈いただくことを考えております。また後ほど、奈良原アーカイブとの関係なども含めて担当から御説明申し上げます。

また、作家不詳となっているのは、19世紀のアンプロタイプでございまして、非常に歴史的なものがございましたため、今回お受けすることを考えております。

海外作品、日本人でアメリカ在住の、ニュー・バウハウス系の作家でございます井高雄一、また19世紀のオーリン・フリーマン、これは写っている人も含めて歴史的な研究がなされたものでございます。

映像作品としては、今度、こちらの「恵比寿映像祭」に出品いたします、イトー・ターリでございます。

概要は、以上となっておりますけれども、この後、この個表を持って、作品を御覧いただきながら、御説明できればと思っております。

こちらの部屋での説明は以上です。

知花文化施設担当課長：ありがとうございます。

今の時点で皆様から御質問、御意見ございますでしょうか。

よろしければ、実見に移りたいと思います。係の者が案内をさせていただきます。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

知花文化施設担当課長：それでは評価をお願いできればと思います。

評価書は3種類に分かれておりますので、評価額を書きいただき、最後に御記名をペンでお願いできればと思います。

記入がお済みになりましたら、事務局のほうにお知らせいただけますと幸いです。確認が完了しましたら御退席いただいて結構です。

本日はありがとうございました。

(評価書記入)

午後5時35分閉会

以上